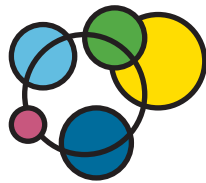


そわにえ Soigner



第17号

「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2009年6月15日発行

発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

INDEX /	My hobby.....⑤
さんぼみち.....①	ステーション紹介⑥
総会報告.....②	1日体験研修報告⑦
新人管理者支援研修会④	編集後記他.....⑧



「横須賀市・ヴェルニ公園」 鮫島敦子さん撮影

私は男性看護師 (保健師) として、地域看護学の教育に従事するようになって23年が経過した。これまでの地域看護の実習を少し振り返ってみたい。

私のいる学校では、訪問看護ステーションが設立される前から在宅での看護実習を行っていた。その当時は、学校が所在している保健所管内の一地域をフィールドに設定して、学生による訪問を受け入れてくれた在宅高齢者と障害児を中心に、学生2名と教員とで訪問看護の実習を組み立てていた。一回の訪問にかかる時間は2時間くらいで週に2回訪問し、3週間ごとに次の学生が同じ対象者を受け持つというようにして行っていた。同じ対象者に対する最も長い訪問継続期間は約7年で、とても多くの学びをさせて頂いた。一方で、訪問看護ステーションが無かった時代は、病院看護師になる学生がなぜ在宅看護の実習をしなくてはいけないのか? という質問を受けることも少なくなかったものである (当然、指定規則にも無かった)。

時が流れて、訪問看護ステーションが設立されると、実習はこれまでのフィールドから、20箇所弱の訪問看護ステーションで行なわせて頂くようになった。学生たちは在宅看護の実習を行なうのは当然と考えるよ



うになっていた。しかし、その頃から大学病院等における入院期間の短縮政策によって病院実習では慢性期ケアを経験しにくくなり、訪問看護ステーションでの実習で初めて慢性期ケアを実際に経験するような状況が生まれ

てきたのである。

そして、今年度の訪問看護ステーションでの実習を終えたある学生が、「このまま看護に進んでいいのか、やめようか迷っていたが、この実習を通して、やはり看護に進もうと考え直した。」と言った。学生によると、同行訪問してみて、訪問看護師さんのケアは対象者の生活を整えることに密着していた。もちろん家族も含めて。療養や介護と生活が調和するように生活を整えていくことは看護の原点であると。

学生たちは新入生のときにナイチンゲール看護論を教えられるが、F.ナイチンゲールは地域看護の祖であり、それから150年経った現在でも、そしてこれからも在宅看護は看護の原点であり続けるだろう。多忙な訪問看護師さんにはご迷惑をおかけすることも少なくないが、生活を整える在宅看護の大切さを看護学生たちにぜひ伝えていって欲しいと願っている。

「看護教育における
23年間の地域看護の実習から」
東京女子医科大学看護学部地域看護学
教授 伊藤景一

